

生涯にわたって健康な生活を送ることができる子の育成 ～学校・家庭・地域との連携を図りながら～

1. はじめに

郡上市は、日本、そして岐阜県のほぼ中央部に位置し、長良川源流部の山林と高い水源涵養能力によって美しく豊かな自然に恵まれている。また、夏は「アユの友釣り」「ラフティング」や「徹夜踊り」、冬は「ウィンタースポーツ」というように、自然と文化、そして観光産業の中で、日々、脈々と人々の生活が営まれている。

近年の郡上市の人口の現状は、0歳～14歳の年少人口と15歳～64歳までの生産年齢人口が減少傾向にあり、特に高校卒業後の19歳以降の人口は、進学や就職等で転出することが多いことから極端に少なく、少子高齢化や人口減少が大きな課題となっている。

郡上市では、2016年策定の「郡上市総合計画」の理念「みんなで考え、みんなで作る郡上」のもと、子どもからお年寄りまで、全ての市民の生活満足度が高まり、住み慣れた地域で暮らし続けることを目指して取り組んでいる。健康福祉の分野では「健康福祉推進計画（2017年～）」が、そして教育の分野では「第3期郡上市教育振興基本計画（2019年～）」が策定され、子どもたちの健康安全を両輪で支えている。

2. テーマ設定の理由

(1) 今日的な課題から

郡上市全体の教育を取り巻く現状としては、情報化や国際化など社会状況の変化に伴い、個人の価値観や生活様式が多様化することで家族の形態も変化し、3世代同居が減少し核家族化が進むとともに、1世帯あたりの人数も減少している。核家族化や共働き世帯の増加により、家庭の教育力が低下し、本来家庭で身につけるべき子どもの基本的な生活習慣や態度が身に付きにくくなっていることが懸念されている。

また、少子高齢化や価値観の多様化を背景に、地域のつながりが希薄化する傾向にあり、教育においても、子育て世代の孤立化や子どもの社会性が育成されにくくなることから、子どもの安全で健やかな成長を支えるためには、地域社会がつながりを持ち、積極的に子どもたちに関わっていくことが必要となってくる。

(2) 子どもの実態

健康福祉の側面では平成27年度に行った「第1次健康福祉推進計画」の達成度評価の結果、「規則正しい生活を送ること」や「よい食習慣をもつこと」に課題がみられ、特に乳幼児では「夜9時までに寝ること」や「テレビを見たり、ゲームをしったりする時間を2時間以下にすること」が前回の調査よりも悪くなっていた。また、学童・思春期については、コンビニの普及やクラブ活動等により家族との食事時間にずれを起こす家庭もあることなどから、子どもを取り巻く食生活環境にも大きな変化を起こし、生活リズムが深夜化する傾向がみられ、「早く起きること」や「毎朝、朝食を食べること」などの規則正

しい生活習慣に影響を与えている。

教育の側面では、学校や家庭の生活習慣が見直されることで、う歯や肥満、朝食の欠食は減少しつつあるが、近年、子どもや親がインターネットやゲーム等に費やす時間が増えることで、家庭での生活リズムや食生活にも影響を及ぼし、こうした生活習慣の乱れが学習意欲、気力、コミュニケーション能力の低下の要因の一つとして指摘されている。

こうした子どもたちの実態や取り巻く地域社会の環境変化のもと、「郡上市健康福祉推進計画」では、限られた地域資源を最大限有効に活用するために、市民と行政、専門職等が力を合わせて課題の解決に取り組むことを重要な点として位置付け、身近な地域の仲間や組織（学校・職場・地域）が共に活動し、個人の健康づくりを支援する取組を進めている。また、「郡上市教育振興基本計画」では、学校、家庭、地域の適切な役割分担、連携、協力による取組を一層推進していく必要があるとしている。

そこで、郡上市では「郡上市健康福祉推進計画」と「郡上市教育振興基本計画」に基づき、「郡上市学校地域保健連絡会」を活用した実践的な取組を推進しており、この組織を充実させることが、子どもたちの健康課題を改善させることにつながり、生涯にわたって主体的に健康な生活を送ることができる子になると考え、本テーマを設定した。

3. 郡上市学校地域保健連絡会とは

学校地域保健連絡会では、幼稚園・保育園・学校そして学校医の先生方、また地域振興課などの関係諸機関が地域の子どもの健康課題やめざす姿を組織全体で共有しながら、学校保健や地域保健の各事業をすすめることにより、子どもたちの健康や心身の健やかな成長を支援している。きめ細やかに健康課題に取り組むために、テーマや取り組む課題、構成員、活動内容などは地域の実態によって異なり、7地域ごとに連絡会を運営している。

事務局は、郡上市健康福祉部健康課にあり、各地域に駐在している保健師が中心となって、年に2～3回の連絡会を開き、活動の方針や内容などについて、代表の校長や養護教諭等と検討しながら会を運営している。地域ぐるみで地域全体の子どもたちの健康を支援するために、構成員全員でテーマに関する取組を共有するなど組織間の十分な意思の疎通を図りつつ、関係諸機関と連携を図りながら継続した取組をすすめている。

4. 願う子どもの姿

- ・基本的な生活習慣を確立することができる。
- ・自己管理能力を高めることができる。

5. 研究仮説

学校・家庭・地域の専門機関との連携により学校保健活動を充実させることで、多様化・深刻化する子どもたちの健康課題に対応し、子どもたちが生涯にわたって健康な生活を送るのに必要な習慣を身につけることができる。